



子どもたちが被害者にならないために！

ていね

「子どもたちのセーフティネット」

事業

手稲区では、平成18年1月に区内の町内会、各種団体、学校などの代表者で構成される「ていねっていいね！区民の集い」で、「みんなで創ろう犯罪のない“ふるさと手稲”宣言」を採択し、地域の防犯意識の向上と自主的な防犯活動に取り組んでいます。

今回は、その取り組みのひとつとして平成18年度から行っている、ていね「子どもたちのセーフティネット」事業について紹介します。

平成18年度

犯罪被害に遭わないための危険な場所に注意する取り組み

講演会

立正大学の^{こみやのぶお}小宮信夫教授を講師に迎え、「犯罪に遭わない子どもと地域（まち）」と題する講演会を開催しました。

講演では、犯罪発生を防ぐためには、「不審者」に注意するのではなく、地域に潜む「危険な場所」に着目し、住民の交流により「犯罪の機会をなくす」ことが重要であり、子どもの犯罪被害を防ぐ手法として、「地域安全マップづくり」が有効との話がありました。



▲講演する小宮教授

地域安全マップづくり



▲いつも遊んでいる公園にも危険な場所が？

講演会に続き、小宮教授指導のもと手稲鉄北、稲積の両小学校で子どもたちによる「地域安全マップ」づくりが行われました。

大人がつくる「不審者マップ」や「犯罪発生マップ」ではなく、子どもたちが自らまちを歩いて、「どのような場所に注意が必要か」を調べ、手作りの地図に書き込んでいきました。

参加した子どもたちは、「身近に危険なところなんてないと思っていたのに、こんなにあるなんてびっくりした」「これからは、気をつけないと」と話していました。

▼マップをつくって発表



その後

「地域安全マップ」づくりは、星置児童会館や手稲西小学校でも行われ、区内で広がりを見せています。

地域での取り組み

手稲区では、この取り組みを多くの地域で参考にしていただくため、マップづくりの様子をまとめたDVDを、区内の小中学校やまちづくりセンターなどに配布しました。

このDVDは、区役所で貸し出しを行っていますので、興味のある方は、区役所までご連絡ください。



▲子どもたちと一緒に落書き消し

子どもたちが「地域安全マップ」づくりを通して見つけた危険を誘発する場所。

このような場所を地域として解決していこうと、地域住民で作る「稲積安全・安心まちづくり協議会」では、稲積小の子どもたちと軽川に架かる前田橋の橋脚に書かれた落書き消しを行いました。